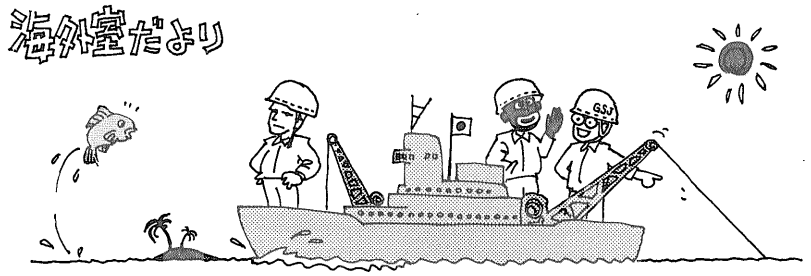


No. 10

地下水コースの新 GI

前々回の海外室だより（No. 8）でもお知らせしたように GI とは General Information の略号で 海外技術者研修の概要・応募手続などを記した言わば"研修員募集案内"を指します.

GI の内容・体裁をほぼ20年ぶりに改めることになり沿海鉱物資源探査コースに引き続き 地下水コースでも昭和61年度用の新しい GI を作成しました. 新 GI には特にカリキュラムを具体的に記述するよう求められていましたので 昨年の研修生からの要望 所内のカリキュラム検討会 あるいは一部講師の方々の意見を参考に以下のようにまとめました.

1) カリキュラムを Introductory Subjects, Basic Subjects, Subjects on Groundwater Development, Groundwater Management, Special Topics, Study Tour の6項目に区分する.
2) 基礎科目に新たに水文学及び地下水の物理を加える
3) 研修生からの要望の強い さく井技術及び物理検層については現場見学の機会を設ける
4) 地下水管理を大項目とし 充実を図る
5) 写真地質・水質・地下水シミュレーションなどについて より実践的な内容に改善を図る

新 GI の作成を契機に 海外技術者研修が増々充実したものになることを祈るとともに 関係各位の一層の御支援・御協力を賜りたく紙面を借りてお願い申し上げます.

（石井）

帰国研修員の巡回指導 国際協力事業団（JICA）の集団研修には "フォローアップ"とよぶ 帰国研修員に対する巡回指導の制度がある. その目的は 帰国研修員の所属する機関および関係する機関を訪問し 1)対象機関の活動および帰国研修員の動向を調査する 2)わが国が実施した研修の成果を測定する 3)セミナーの開催などにより 現地での技術指導を行う 4)当該国の技術的な問題点およびニーズを把握する ことであり これらの結果を 今後の研修員受入事業の向上発展に役立てようとするものである.

地質調査所が受持つ2コースでは これまでに 沿海鉱物資源探査 地下水資源開発両コース合同の東南アジア3カ国（タイ マレーシア インドネシア／昭和50年2月23日～3月18日／河野迪也 野間泰二 中井信也）および沿海鉱物資源探査コースの南アジア3カ国（インド バングラデシュ ビルマ／昭和53年8月20日～9月6日／名取博夫 駒井二郎 関口洋文）の巡回指導がある.

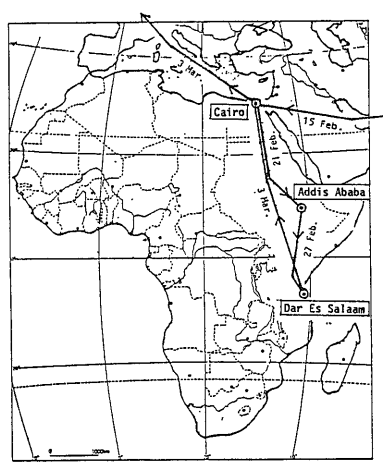
今回のアフリカ3カ国のフォローアップは昭和42年以降 19回の集団研修を続けてきた地質調査所としては3回目 地下水資源開発コースとしては昭和50年以来 11年ぶりの巡回指導であった.

昭和60年度帰国研修員巡回指導（JICA）

1. コース名：地下水資源開発
2. 対 象 国：エジプト エチオピア タンザニア
3. 期　　間：昭和61年2月14日～3月5日
4. 班　　員：斎藤友三郎（海外地質調査協力室）
　　野間 泰二（環境地質部水資源課）
　　西川 昭司（TBIC/JICA 研修課）

（斎藤）

指導巡回経路



紋どころ その3 アジア編

1) **フィリッピン 鉱山・地球科学局**（Bureau of Mines and Geoscience）

地質調査所とは非常に関係の深い機関です 当所の担当する二つの集団研修コース 沿海鉱物資源探査と地

下水開発には毎年研修生が同局より参加しており　また当所よりも　海洋資源探査船「EXPLORER」号と鉱物分析センターへの技術協力として　年間5～6名の専門家が派遣されています．　マークは外側は濃いセピア中の小円は黄　ハンマーショベル　保安帽はグリーンとカラフルなデザインを採用しています．　ときどき保安帽のライトが左向きでなく右向きのものも見うけることがあります．　多分まちがえて裏焼きしてしまったのでしょう．

2)　**タイ　鉱物資源局** (Department of Mineral Resources)

タイ鉱物資源局と地質調査所の関係も30年来の古いつき合いです．　外側の歯車は工業を現わしているのでしょう．　中には鉱物資源局を英語とタイ語で表記しています．

3)　**マレーシア・地質調査所** (Geological Survey of Malaysia)

マークの中の模様で　ハンマーと交叉しているのは古い形の剣です．

4)　**ブータン・地質調査所** (Geological Survey of Bhutan)

二匹の竜が曼荼羅を抱えた美しい紋様です．　1981の数字は　多分ブータン調査所の創立年と思われます．

5)　**インド・地質調査所** (Geological Survey of India)

交叉するハンマーの上の像は　それぞれ正面と左右の側面をみせている三頭のライオンです．　その上にはサンスクリットで　インド地質調査所と記されています．

1851年創立とありますので　当所より31年も古い 155年の歴史を誇っております．

6)　**パキスタン・地質調査所** (Geological Survey of Pakistan)

中央上部の三日月と星のマークは　パキスタンの国旗の印しです．　交叉するハンマーのFの左側に油田の櫓右側に顕微鏡　下側にアンモナイトの化石を配しています．

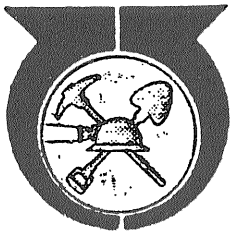
7)　**バングラディシュ地質調査所** (Geological Suruey of Bangladesh)

御存知のように　バングラデシュ民主共和国は　1971年3月　東パキスタンが独立して建国された新しい国です．　地質調査所の紋章は　左に顕微鏡　中央に石油井右に巻貝の化石を配したデザインの　なかなか凝ったものを使用しています。

8)　**アフガニスタン国立地質委員会** (Afgan National Committee of Geology)

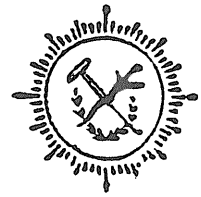
地質・鉱物調査局に属する地質委員会のマークは中央にアフガニスタンの国土と委員会のイニシャルANCGと交叉するハンマーです．　上部にはアフガン語で組織の名称を記しています．　言葉はアフガン語ですが　文字はアラビア語を使用していますので右から左へ読みます．　(つづく・桑形)

1　フィリッピン



2　タイ

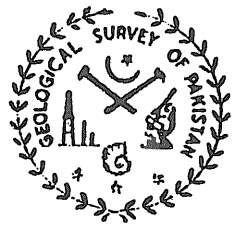
3　マレーシア



4　ブータン

5　インド

6　パキスタン



7　バングラディシュ

8　アフガニスタン